

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立富田中学校

校長 大橋 賢二

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

保護者や地域の方々が主体的に学校運営に参画し、本校の教育目標である「確かに生きる」の実現に向けて協働します。その中で特に、「授業を大切にする学校」「一人ひとりを大切にする学校」「保護者や地域と協働し高め合う学校」の3つの決意を意識して取り組みます。運営協議会は、「生徒の実態を把握し、協議を行う」「学校教育活動を地域に広める」「生徒と地域の関わりを深める」の3つの視点を大切にして推進します。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

本年度は昨年度より1回増となる4回の会議を開催しました。コロナ禍において開催方法を工夫しながら、学校長の目指す学校づくりビジョンを具現化するためにも、できることを実施してきました。学校づくり各運営委員に、会議開催時の授業見学は2度実施できました。また体育祭や文化祭を参観され、また学校長が発行している「学校だより～友愛～」や学校HP等を見ていただくことによって、学校生活の様子や今の生徒の実態を少しずつでも把握していただくことができました。また、学校評価アンケートの結果、行事を通じた学校の状況や情報の提供を大切にしてきました。

1月に開催された4回目の運営協議会では、1年間の学校の教育活動や運営方針等の状況について客観的な評価をいただくとともに今後の学校運営に対する様々な角度からの意見や助言等をいただきました。

① PTA除草活動【8月20日（土）開催】

恒例行事となっていた「PTA除草活動」。例年、保護者の皆さんや地域の皆さん、教職員が一緒になっての取組みが「PTA除草活動」です。今年度は100名ほどの保護者・地域の皆様にご協力をいただきました。また地域の自治会の方々やCS運営協議会委委員の方や登校時の見守り活動を継続いただいている学校協力員さんが、休日等を利用して学校周辺の除草作業に取り組んでいただきました。そのような地域の皆様方のあたたかい気持ちがしっかりと生徒にも伝わっていると思います。教育活動に安心・安全に取り組める環境を作っていただきました。学校づくりの3つの決意の一つである「保護者と地域とともに高め合う学校」を目指すうえで欠かせない活動となっています。



② 防災学習(炊き出し訓練、防災講話等)【11月12日(土)土曜授業として】

11月12日の土曜授業。2年生では『防災学習』に取り組みました。『自助・共助・公助』の観点から災害への備えについて意識を高めることを目的とした内容です。

1. 備蓄倉庫見学

教室棟5階にある備蓄倉庫を実際に入り、富田地区、中学校、四日市市が共有する備蓄倉庫には何が備えてあるのか、それらはどのように何のために扱うのかを考えながら見学しました。富田中学校の備蓄倉庫見学からも、富田地区の自然災害への備えや災害に対しての学校の重要性も理解できたと思います。

2. 防災講話

「防災講話」の講師は、富田中学校で図書支援員として長期にわたりお世話になっている澤田浩一さん。毎週月・水・金に図書室で子どもたちへの図書にかかわる支援を継続していただいています。伊勢湾台風に遭われた経験談を交えながら、自然災害の脅威についてお話をいただきました。今後、中学生が地域の防災に対して重要な役割を担っていることを学びました。普段から、子どもたちにあたたかく寄り添いながら対応していただく澤田さんが講師だからこそ、安心して話を聴くことができました。

3. アルファ化米の炊き出し訓練

ニイミ産業さんを講師として、『ガスボンベの取り扱い』について学びました。子どもたちが「安心・安全」に体験学習ができるように、とても丁寧で分かりやすく実演を交えた説明をしていただきました。ガスにかかわるお話を初めて聴く子どもたちは少し緊張気味であったものの興味津々に学んでいました。その後、ガスコンロを実際に使用し、お湯を沸かしてアルファ化米の炊き出しを行い、みんなでおいしくいただきました。



③ 中学生と語る富田の未来【2月27日(月)富田中学校体育館にて】

2年生は「富田再発見」と題して地域調べ学習を行いました。『祭り』『産業・商店街』『神社仏閣』『交通』『防災』『環境』の7つのテーマをもとに、2年生各班にて一人一台タブレットを活用し、調べ学習として富田地区に出かけ、「富田をよくしていくために」「富田の魅力」「富田の良さ」について考え、「持続可能なまちづくりの視点」でPowerPointにて各班でまとめました。

当日は富田地区まちづくり協議会を中心に7名の地域関係者をお招きし、学級で選ばれた4つの班がPowerPointにてプレゼンテーション(発表)をしました。その後参加生徒と地域関係者のみなさんと「富田の未来について」のディスカッションを実施しました。大変有意義な時間を過ごすことができました。

また中日新聞やCTYに取材していただき、富田中の活動をアピールできました。「保護者と地域とともに高め合う学校」を目指し、この取り組みをさらに充実発

展させていきたいと思っています。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

- 運営協議会では地域で活躍されている皆様方が委員となり、中学校の様子を知っていただく機会を設け、多くの意見を頂戴することができました。実際に学校生活を送る中学生の様子を4回に分けて参観いただきました。
- 生徒アンケート「地域の人や保護者と協働した学習や活動に取り組むことができましたか」は61%が「思う」「どちらかといえばそう思う」という回答であった。2年連続で低下している。一方保護者アンケート「お子さんは、地域の人や保護者と協働した学習や活動に取り組んでいましたか」は69%、職員アンケート「地域の人や保護者と協働した教育活動を計画的に実施しましたか」では78%が「思う」「どちらかといえばそう思う」という回答で、前年度に比べると向上している。
生徒調査から感じるのは、生徒はもっと地域に出て地域の方との触れ合いを期待している面もあるかもしれない。先に紹介した「中学生と語る富田の未来」のような取り組みを継続させ、生徒の期待に応える必要性を強く感じました。

3 今後に向けて

運営協議会では次年度の「学校づくりビジョン」をコミュニティスクール運営委員会に提示し、今後の学校経営の計画、立案、評価等について意見をいただきました。

以前より富田地区の地域の方々や保護者のみなさんは、教育活動に大変熱心に参加、協力をいただいていた「地域の中の大切な学校」です。今後コミュニティスクール運営協議会が核となって、地域—家庭—学校が一緒になって「地域全体で子どもたちを育てよう」とする気運を高めていきたいと思っています。今後も開かれた学校づくり、保護者や地域と協働し高め合う学校づくりを進めていきたいと考えています。